

昭和37年9月20日生
 平成23年4月福岡県議会議員初当選
 平成27年4月二期目
 平成31年4月三期目
 令和5年4月四期目
 添田町立添田小学校・添田中学校卒
 福岡県立田川高等学校卒
 日本大学商学部会計学科卒
 麻生セメント株式会社入社・株式会社
 麻生情報システム転籍
 株式会社麻生情報システム代表取締役
 社長
 福岡県農林水産副委員長 福岡県総務
 企画地域振興委員長



さとし
こうざき 聡 夢からはじまる
<http://www.kouzakisatoshi.com>

県政報告 自由民主党福岡県議団
 令和6年10月号

自由民主党福岡県議団
 県民生活高工常任委員会委員
 子育て支援・人財育成調査特別委員会副委員長
 福岡県議会議員 **神崎 聡**

令和6年9月定例会も閉会しまし
 た。閉会日に服部知事から、予算議案
 2件、条例議案5件を計35議案が
 提案されました。提案された主な条例
 案は、福岡県税条例及び福岡県宿泊税
 条例の一部を改正する条例、福岡県飲
 酒運転撲滅運動の推進に関する条例の
 一部を改正する条例などをです。

更に和5年度福岡県一般会計決算議
 案など、令和5年度決算の審査に係る
 議案20件が追加提案されました。代
 表質問、一般質問での審議、及び各常
 任委員会の審査を経て、9月25日に
 早期議決を要する議案の議決がなさ
 れ、いずれの議案も可決されました。

その後、決算特別委員会の審査が行わ
 れ、最終日の10月9日には来る衆議院
 選挙に要する補正予算案が新たに1件
 追加提案されました。
 当該予算案の審査終了後、本会議で
 決算議案、追加補正予算議案の採決が
 行われ、いずれの議案も可決されまし
 た。

所属しています県民生活高工常任委
 員会では、大阪・関西万博に海外から訪
 れる観光客を福岡県へ呼び込むため
 に、海外の旅行会社と連携して新幹線
 と県内を周遊できるバスツアー「よかバス」
 を宿泊に組み合わせた商品を開発する
 費用などとして、1億
 5,334万円余りを
 計上しています。



【主な予算項目】

- <安全・安心の確保>
 ○道路の安全を確保 75億522万余
 ・通学路の歩道や災害時の緊急輸送道路の整備等を実施
 ○洪水災害防止、港湾の老朽化対策等を実施 9億5,736万円余
 ・河川の護岸等の整備を実施 ・港湾の航路浚渫や岸壁補修等を実施
 ○能登半島地震を踏まえ、地震・津波対策を強化 2,674万円余
 ・海域活断層による地震・津波被害想定調査の必要性を判断するための予備調査を実施
 ・警固断層ほか3つの主要活断層による地震被害想定を再調査を実施

- <地域活性化>
 ○「よかバス」を活用し、「大阪・関西万博」への訪日客の本県誘客 1億5,334万円余
 ○高校生へ優れた技術や将来性を有する県内企業の魅力を紹介し、就職を促進 1,228万円余
 ○世界初の卓球男女シングルス・ダブルス同時開催となる「WTTFINALSUKUOKA2024」を契機としたスポーツ振興 1,026万円余
 <その他>
 ○知事選挙関連経費 18億4,851万円余
 ・投票所・期日前投票所の設置等に対する市町村への交付金、選挙啓発のためのSNS広告等



県の仕事は非常に広範囲かつ複雑なので、議案等を能率よく専門的に審査するために、委員会を設置しています。委員会は、閉会後も必要に応じて審査や調査を行い、県政に反映させるため活動しています。常任委員会は、その所管に属する県の事務に関する調査及び議案、請願等を審査するため設置されています。

県民生活・商工常任委員会

県民生活商工委員会は、多様な主体の協働の推進、県民の文化及びスポーツの振興、男女共同参画社会の推進、安全・安心まちづくり及び消費者政策の推進、中小企業振興、先端成長産業の育成、観光振興、企業立地の推進、電気・工業用水道及び工業用地造成事業などについて審査及び調査を行っています。

県民生活常任委員会（令和6年7月30日）

審議内容は、

- ①陳情書
○TSMC 誘致に関する陳情
- ②調査事項資料
○一般社団法人九州観光機構の事業について
- ③その他
- ④今後の委員会日程について

九州地域戦略会議で2005年に策定された「九州観光戦略」の実行組織として設立されたのが「九州観光機構」ですが、昨年度(令和5年度)で、第二期九州観光戦略の最終年度でありました。その成果なり実績を審議し、また本年度から2030年度までの7年間の第三期戦略についても併せて審議していました。

九州全体の観光戦略の中で福岡県としてどうするのか、市町村との連携について、通過型から宿泊滞在型へシフトしていく上で、そもそも滞在できる宿泊施設が少ない地域に対する対策をどうするのか、修学旅行への取り組み等、質問と意見を発言しました。

またパリ2024オリンピックにおいて、本県にゆかりのある選手や、本県の「タレント発掘事業」からの出場も多数いることから、福岡県ゆかりのあるオリンピック&パラリンピック出場についての資料が要求されました。

また、航空機産業の期待が大きかった三菱重工業が国産初のジェット旅客機MRJの開発から撤退したについて、本県としての今後の方針や戦略について意見も出ました。三菱重工業は2008年から国産初のジェット旅客機のプロジェクトをスタートさせ、国からおよそ500億円の支援も受けて開発を進めていましたが、たび重なる設計の変更で6回にわたって納入が延期され、去年、撤退に追い込まれました。

経済産業省によると有識者を交えて撤退に至った経緯などを検証し、その教訓を踏まえて航空機産業が目指すべき方向性を盛り込んだ新たな戦略案をまとめたとしています。県としては、今後の国の動向を注視しながら、本県が取り組んでいる水素エネルギーなど脱炭素に対応した次世代産業の育成に取り組んでいくのではないかと考えます。



県民生活商工常任委員会管内視察（田川市・水巻町・八幡西区）

(1) 田川市石炭・歴史博物館～デジタルミュージアム

「デジタルミュージアム」を導入する経緯について、田川市では田川の炭坑文化・歴史を後世に引き継いでいくことを使命と考え、炭坑を知らない世代が増えている中、DX技術を駆使して炭坑のことを知ってもらい仕組みができていないかの考えから導入を決めた。コンセプトを「おうちで学ぶ」「博物館で学ぶ」として、デジタルツインと炭坑体験VRシアターの二つのDX事業を導入している。

「デジタルツイン」は、博物館と石炭記念公園をインターネット上の空間で再現し、自宅などに居ながら、博物館の展示資料は無論、普段、立ち入ることができない二本煙突の内部や蒸気機関車の運転席の様子などをパソコンやタブレットなどで見ることができるもの。また、空間上で建物などの大きさを測定することが可能となっていた。

デジタルツインのシステムは、アメリカのマザーポート社が開発したもので、360度高精細カメラで撮影した博物館内や石炭記念公園の3Dデータを同社のサーバーに保存し、ネットを介してその映像を体験できる仕組みとなっている。デジタルツインは、現地に行かなくてもその状況を映像で確認できることから、最近では、製造業や建設業での現場で導入が進んでいるようで、現況調査や関係者とのコミュニケーション、報告などの業務で使用しているとの事。実際にタブレットを使用して、デジタルツインを体験させてもらった。

博物館で炭坑のことをよりリアルに感じてもらい学ぶ仕組みとして導入したのが、採炭の様子をCGで復元した映像を体験できるVRシアター。シアター室では、現代から昭和初期の三井田川鉱業所伊田堅坑にタイムスリップして、発破採炭などの坑内作業から作業を終えて坑外に出てくるまでの様子を6分間のVR動画で体験できる。

館内の18㎡程度の復元炭坑住宅の内部をシアター室に改装し、正面と左右、床の4面をスクリーンにして、4台の4K対応プロジェクターで投影することで臨場感ある動画が見られる空間となっていた。VR動画の課題は、炭坑動画を製作した経験を持つベンダーが全国にほぼ無い中、映像をリアルなものにするためCGの精度を上げるなど単価で製作費が高額となる。偶然、トンネル工事などの動画製作の実績を持ち、VRの技術力が高いベンダーを見つけることができ、そして製作スピードも格段と早く、このベンダーに依頼し幸運だったとのことだった。

今後は、田川市の観光資源の一つとして市内外から多くの方に来てもらうために、現在、観光協会や旅行会社、大学などを訪問して宣伝活動を行っている。さらに高齢者施設で炭坑を知っている世代の方にもVR動画を見てもらい昔を懐かしんでもらいたいと述べられた。



(2) 上野精機株式会社（遠賀郡水巻町）

半導体業界の課題を解決するソリューション型ビジネスとして、上野精機株式会社は高精度な検査装置などニッチな分野に注力し、高い品質を維持しながら、顧客の生産性向上に貢献されている。日本が半導体製造における支配的地位を失って久しいが、上野精機のようなソリューション主導型企業のおかげで、チップや他の電子デバイスの製造装置に関しては、依然として世界的リーダーであり続けている。上野精機は1972年の創業以来半導体・電子部品の外観検査装置メーカーとして高評価を得ており、このニッチな市場でトップシェアを誇っている。研究開発、設計、製造、カスタマー・サポートを含む完全な統合サービスを顧客に提供し、経済産業省よりグローバル・ニッチ・100企業にも選ばれており、同社の技術、サービス、およびソリューション型ビジネスとしての主導的地位を証明している。

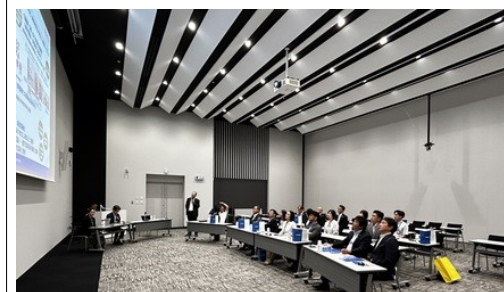
代表取締役社長の上野昇社長からの説明で、ソリューション型ビジネスに徹底的にこだわり、お客様が抱える課題や問題を解決するために、技術や製品を活用するよう常に努力している。「私たちの目指しているのは、必ずしも市場でナンバーワンになることではない。むしろ、特定の 카테고리で最高のソリューションと最高のテクノロジーを求めている。つまり、利益を追求するのではなく、お客様にとって最善を尽くすことこそが、私たちが注力していること」まさに検査装置としてのトップメーカーとして進化していることを実感した。



(3) 株式会社安川電機（北九州市八幡西区）

安川電機は1915年の創業以来、「電動機（モータ）とその応用」を事業領域に定め、その製品・技術により時代の先端産業を支えてきている。「技術立社」を社是として、事業の基盤である「メカトロニクス」（メカニズムとエレクトロニクスを融合した概念）のコンセプトを世界に先駆けて提唱し、世界一・世界初の革新的技術・製品の開発にこだわりながら、品質第一の経営を貫いている。コア技術は、「モーション制御」「ロボット技術」「パワー変換」。

福岡県とも共同開発で取り組んでいる「イチゴのバック詰めロボットの開発」も見学させてもらった。実際に、安川電機が人工知能（AI）を搭載する農業ロボットの開発を加速しているが、全国農業協同組合連合会（JA全農）と共同で取り組むキュウリ収穫ロボットでは、不要な葉の刈り取りが実用段階に達していた。実を選別して切り取る機能も加えて2025年度にも農場への導入を目指すとしている。さらに、畜産・農業生産・流通販売の3分野を中心に自動化技術の可能性を検討している。人手不足が深刻化する農業で、周囲の状況を判断するロボットとして自動化領域を拡大していくものとする。



特別委員会は、非常に広範囲かつ複雑なので、議案等を能率よく専門的に審査するために設置されています。

子育て支援・人財育成調査特別委員会 子育て支援並びに子どもの権利の保護及び健全育成その他少子化・人口減少社会に関する諸施策の推進を図るため

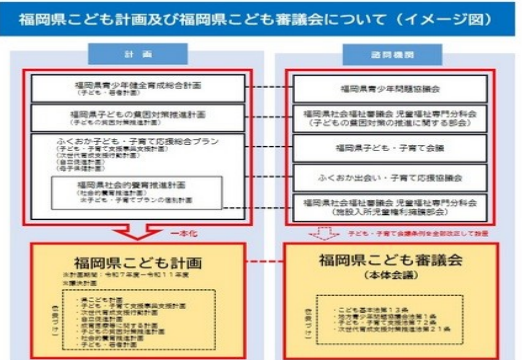
- 1 子育て支援並びに子どもの権利の保護及び健全育成に関する諸調査
- 2 働き方改革及びジェンダー平等の推進に関する諸調査
- 3 人材（人財）育成及び教育施策の充実に関する諸調査
- 4 その他少子化・人口減少社会に関する諸調査

子育て支援・人財育成調査特別委員会

令和6年8月20日午前中「子育て支援・人財育成調査特別委員会」が開催され、午後から引き続き管外視察(20日21日)が実施されました。議題は以下の通りです。また委員会に先立って9時半より正副委員長勉強会も行われています。

- ①福岡県子ども計画について
- ②今後の委員会活動について

子ども計画策定の経緯等について、令和5年4月に施行された子ども基本法に基づき、国は子ども施策を総合的に推進するため、これまで個別に策定した「子供・若者育成支援推進大綱」、「子どもの貧困対策に関する大綱」、「少子化社会対策大綱」を「子ども大綱」に一元化しました。県は「子ども大綱」を踏まえ、「子ども大綱」に関連する現行の県計画を「福岡県子ども計画」に一本化し、計画は令和6年度中に策定し、令和7年度から11年度までの5年間を計画期間としています。これに伴い、既存の諮問機関を統合した「福岡県子ども審議会」を令和6年度から設置しました。



子育て支援・人財育成調査特別委員会管外視察（石川県・富山県）

管内視察では、以下の視察先を訪問しています。

- ①遠賀町子育て支援広場「ぐっぴい」
- ②遠賀南学童保育クラブ
- ③福岡県立大学附属研究所 不登校・ひきこもりサポートセンター

①遠賀町子育て支援広場「ぐっぴい」では、JR遠賀駅隣接に建設された施設で、役場の職員から遠賀町の子育て支援対策の概要や、人口減少社会へ向けた遠賀町の取り組みについて説明を受け、その後質疑応答を行いました。

子どもとその保護者を対象とした地域子育て支援ひろば「ぐっぴい」があるエリアは、ユニバーサルデザインの複合遊具や、様々なおもちゃが用意された「遊戯室」で、保護者と一緒に無料で自由に遊ぶことができます。屋外キッズスペースでは、お日様を浴びながら思いっきり遊び、また保育士が常駐していますから、育児に不安や悩みがある人は気軽に相談ができます。

このような地域子育て支援拠点施設は、国が推進する子育て支援策のひとつであり、地域における子育て家庭を支える取り組みとして始まりました。現代社会では、親同士が日常的に交流できる近隣関係や、子ども同士が群れて遊べるような場を見出すことが難しく、育児不安や孤立した子育てが問題となる中で、親子が他者と出会い交流できる仕組みを意図的に再生することが求められています。

このような背景から、市町村が実施主体として、公共施設など身近な場所で子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての悩みや不安を相談できる場所を提供することによって、育児への不安感や負担感・孤立感を軽減する役割を果たしています。

②遠賀町の遠賀南学童保育クラブでは、県会長の吉岡会長からこれからの取り組み等諸課題についての説明があり、実際のクラブの様子を見学させて頂きました。

放課後児童健全育成事業については、家に帰っても、仕事などの理由により保護者がいない児童を対象に、その児童の健全な育成を図るため、一定時間の生活指導を行うものです。この施設では、各学童の運営は、当初小学校毎に保護者等で構成された運営委員会に委託されていましたが、令和2年4月よりNPO法人が行っています。

対象者は、町立小学校に在籍する児童で、保護者が勤務等により放課後等に保護者から指導が受けられない者で、その保護者の入会申し込みにより町長が認めた児童としています。保育期間外は、日曜日・祝日・お盆（8月13日～15日）・年末年始（12月29日～1月3日）となっていました。保育時間は、下校時から午後6時まで。ただし、夏休み、冬休み、春休み及び土曜日は、午前8時から午後6時まで。延長保育は午後6時から午後7時までとなっています。

③福岡県立大学附属研究所「不登校・ひきこもりサポートセンター」は、不登校やひきこもりに悩む子どもたちの将来の社会的自立を目標にした、専門的な支援をおこなう機関です。子どもの状態に応じた個別や集団による直接的な支援とともに、保護者や家庭への支援、学校や適応指導教室への支援、他の専門支援機関との地域連携ネットワークの強化など、子どもと子どもを取り巻く環境の双方に支援しています。

福岡県立大学には、福祉・保健・心理などの分野から、不登校・ひきこもりの児童生徒への支援を研究する専門的教員が多くいます。これら専門教員と県立大で学ぶ大学生、大学院生そしてサポートセンターの専門職員が一体となり、「相談部門」、「連携サポート部門」、「情報発信・研修部門」、「教育・社会支援部門」の各部門を連動させ、総合的な支援をおこないます。

相談件数も約5,000件近くもあり、様々な機関との連携も図っていました。大学が持っている資源を最大限活かしていました。特に援助力養成プログラムは、県大が誇る我が国唯一の教育プログラムだと言います。子どもへの関わり方の基礎を授業で学び、その後、不登校・ひきこもりサポートセンターなどで実際に子どもの支援活動に参加し、それにより、子どもの未来を変えるとともに、学生自身も高い援助力や対人スキルを持った専門職者へと成長することが期待されていました。



福岡県文化議員連盟 福岡県文化議員連盟管外視察～京都市京セラ美術館・石山寺

令和6年8月22日23日の日程で、県文化議員連盟管外視察で、京都市京セラ美術館と石山寺を視察してきました。福岡県は、令和11年度（2029年度）中に新県立美術館の開館を目指し、今後建設が進められます。新たな美術館は、「芸術の可能性を拡張、挑戦する美術館」、「九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館」、「県民が親しみ、誇りを育む美術館」、「公園と一体となった美術館」の実現とワンヘルスの推進に取り組みます。県文化議員連盟では、これまでに数多くの美術館や博物館などを調査研究を重ね、新県立美術館に向けた助言や提案を行い県執行部とともに取り組んできました。

今回の京都市京セラ美術館は、東京府美術館に次いで全国2番目の公立美術館として1933年11月に開館しています。2020年5月にリニューアルオープンし、昨年（2023年）には開館90周年を迎えました。リニューアルのポイントとしては、

- ・創建当時の和洋が融合した本館の意匠を最大限保存しながら、現代的なデザインを加え、リニューアルしている。
- ・現代アートに対応した新館「東山キューブ」や、高機能化された本館の陳列室において京都画壇の名品を中心に紹介する「コレクションルーム」、新進作家を支援する「ザ・トライアングル」などから、伝統と革新が交わり進化する「京都」を体現するような、様々な時代・ジャンルの芸術を発信。
- ・「学び合い」をキーワードにしたラーニング・プログラムや、憩いの場やイベント空間となる「京セラスクエア」や屋上テラスなどのパブリックスペース、カフェやショップなどを新たに設け、現代のニーズに合った、より開かれた美術館へ。

貴重な文化的財産を保存継承し、多様な美術作品の鑑賞機会を提供するとともに、次世代の若手作家や市民の創造的活動を支援する複合型美術館を目指しています。また、芸術系大学や学校の美術教育との連携、市民協働の推進により、すべての人に開かれた生涯学習の場となる社会教育施設として、加えて岡崎地域のポテンシャルを生かし、文化・観光振興のための多彩なプロモーションを可能とする国際文化観光都市・京都の発信拠点を目指しています。

石山寺は、聖武天皇の勅願により良弁僧正が創建した真言宗の大本山ですが、平安時代に長編小説「源氏物語」を執筆した紫式部の人生を描くNHK大河ドラマ「光る君へ」で、主人公の紫式部は、石山寺からびわ湖に映る月を見て、世界最古の長編小説「源氏物語」を書き始めたと言われています。

大河ドラマでは、まひろ（後の紫式部）と特別な絆で結ばれている藤原道長が、一条天皇の心を娘・彰子に向けるため、物語の執筆をまひろに依頼していますが、まひろと道長は、それぞれ別の人と結婚した後も、偶然の石山寺での再会で結ばれ、夫がいながらまひろは道長の子を妊娠しています。「源氏物語」の主人公・光源氏のモデルともいわれる藤原道長との関係を交えて、オリジナル脚本で描くストーリーは、これまでにない大河ドラマであり、だんだん面白くなってきました。

紫式部が実際に来ていた場所に、訪れていることで、同じ風景を見ていたんだと感慨深くなりました。そびえ立つ桂灰石（けいかいせき）の存在感も大きく、石段をあがりながら、今度は暑い夏でなく、秋のもみじなど四季折々の風情を眺めたくまりました。

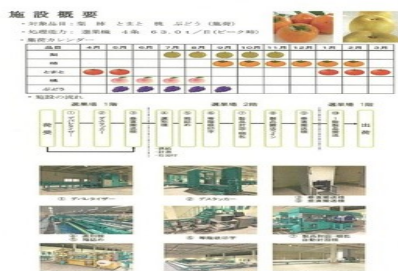


福岡県果樹振興議員連盟 福岡県果樹振興議員連盟管内視察～朝倉市・筑紫野市

令和6年7月22日、福岡県果樹振興議員連盟で①JA筑前あさくら中央選果場と②福岡県農林業総合試験場園芸棟を視察しました。

①JA筑前あさくら中央選果場では、選果状況について、施設概要や環境管理など、現場作業を見学しながら説明を受けました。人の手による手際のよい選果（梨・柿・桃・ぶどうなど）を行ったと、多品種対応で汎用性のある選別コンベヤーや高精度の一体型AIビジョンによる果実内部の成分量や状態を即座に計測することが可能な機械やコンピュータ制御による自動化による作業効率を高めコスト削減を図っています。

②福岡県農林業総合試験場では、試験場で開発した主な品種について（果樹）、早生で糖度が高い赤ナシ「玉水」の育種手法や普及拡大するための新しい技術についての説明や実際に圃場を見ながらの視察でした。温暖化等により国内での差別化が難しくなった梨「幸水」に変わる新品種「玉水」の育成・栽培に関



する新技術でした。また生育が悪くなる根巻き防止の大苗の短期育成法や収量が取れるまでの期間が早く、作業軽労化も期待できるV字ジョイント栽培も視察しました。現場の地道な弛まない努力に頭が下がる思いがしました。これからも本県の果樹振興に頑張ってくださいと思います。

- ・DNAマーカー育種～病気に強い、高温で強いといった特性をもっているかどうかを遺伝子レベルで調べることで、効率的に優れた特性を持つ植物を選抜する方法。
- ・ナシのV字ジョイント栽培～着果開始が早く、収穫が2t取れるまでの期間が短い。枝が低い位置から発生するので、作業の軽労化にも寄与。



略歴

昭和53年	浜田町立浜田中学校卒業
昭和56年	福岡県立田川高等学校卒業
昭和60年	日本大学商学部会計学科卒業
昭和60年	麻生セメント株式会社入社
平成2年	株式会社麻生情報システム 取締役（分社化）
平成12年	株式会社麻生情報システム 取締役
平成13年	株式会社麻生情報システム 代表取締役
平成23年	福岡県選出（田川郡区） 初当選
平成27年	福岡県選出（田川郡区） 2期目当選
平成31年	福岡県選出（田川郡区） 3期目当選
令和6年	福岡県選出（田川郡区） 4期目当選